



西浮通信

令和3年11月30日
NO. 375
東京都北区立西浮間小学校
校長 小島 みつる

コロナ禍を乗り越えて…

校長 小島 みつる

コロナがなかなか収束しない中、学校でのオンライン授業への期待や、その可能性や課題について社会的な話題になっています。大学ではオンライン授業が普通になり、小中学校でもオンライン授業をもっと前向きに考え実施して行くべき、という声も聞かれます。確かに、コロナ禍のように子供たちが学校に来ることが難しい状況の中で学びを保証するためには、オンライン授業も活用されるべきでしょう。本校でも、コロナ対応に関わって長期休みをしなくてはならなくなった児童や教員がいた際には、全時間とまではいきませんが、オンラインでの授業も行いました。しかし、コロナが沈静化したならば、やはり学校に集い、これまで同様の授業や学校生活を送ることが何よりも大切だと思います。

本校の教育目標は「自ら育つ子」です。これは、「自分で、一人で学びなさい」ということでも「自分だけで考えなさい」ということでもありません。大前提として、仲間と共に力を合わせ、教え合い、話し合い、高め合う中で「自分で考え判断し行動する力」を身に付け高めていくことを目指しています。自分を伸ばすためには、周りの人と関わるのが大切なのです。だから、学校があります。先生がいます。

コロナ禍の今年度も、「仲間と共に『自ら育つ子』」を目指し、正解が何か分からなくても、とにかく「今、子供たちに一番大切なことは何か」を教職員全体で考え、今できる一番の方法を探して教育活動をすすめてきました。保護者の皆様のご理解とご協力も教育活動の大きな後押しになりました。社会科見学、校外学習、クラブ活動、フレンド班活動、運動会、学校公開…そしていよいよ12月には3年に1度の学芸会を開催します。昨年度の音楽会も実施に向けて本当に大変でした。工夫に工夫を重ねはしましたが、子供たちのもっている力を十分に出し切らせるには至らなかったかもしれません。表現活動の最たるものである「劇」を行う学芸会は、実施に向けて考えていかななくてはならない課題が音楽会以上にあります。マスク生活しか知らない1年生と2年生。3年前の高学年と比べると、1学年が30人近く増えている4・5・6年生。西浮間小の先生方は今、その多くの課題を克服すべく、子供たちと一緒に奮闘しています。

保護者の皆様にはぜひ、3年前の学芸会と比べるのではなく、今、この状況下でベストを尽くそうと頑張っている子供たちと先生方を応援していただきたいと願います。どうぞ、12月18日の学芸会をご期待ください。

GIGAスクール構想で一人一台パソコンが整備され、本校では夏休み前までは「とにかく使ってみる」を目標に授業や特別活動、家庭学習等での活用を図ってきました。児童も「自分のパソコン」ということで意欲的に取組み、教師が知らなかったような操作や使い方を教えてくれる児童もいました。しかし、パソコンの活用＝学力の定着とは言えず、逆に、パソコンを使うことで学力の定着や伸びを阻害してしまう場合もあります。そこで、夏休み以降は、「学力に結びつく使い方の工夫」を考えた使い方に進化させていきます。学校公開時に実際にご覧になったように、昨年度までとは全く異なった形態の授業が行われるようになりました。児童がパソコンを鉛筆やノート、はさみや定規等と同様に、学習に使う道具の一つとして選択・活用できるようにしていきたいと思っております。

しかし、活用すればするほど、「使い方のルール」に問題が多発するのがPCやスマホでのインターネットの扱い方です。学校でも情報モラルについて全学年で指導を行っていきませんが、ご家庭でも今一度「使い方のルール」をご確認いただき、子供たちのモラルを高める一助をお願いいたします。